

県育成会島原大会

育成会フォーラム

～キャラバン隊「長崎よかよか隊」～

第32回 長崎県手をつなぐ育成会 島原大会



いきいきと暮らす～佐世保市～
全国障害者スポーツ大会

き
輝らっ人

障害者総合支援法の目指すもの
(地域生活モデル・チームアプローチ)



長崎県手をつなぐ育成会島原大会

9月29日(土)島原復興アリーナ(サブアリーナ)

大会スローガン

「伝えよう自分の願いを くみ取ろうあなたの思いを
実現しよう自分の夢を 応援しよう 島原がまだす大会」

隔年ごとに開催される長崎県手をつなぐ育成会県大会が、さる9月29日(土)に島原市の島原復興アリーナ(サブアリーナ)で開催されました。

台風が近づき、お天気が心配されましたが、サブアリーナには県下の育成会から500余名のみなさんが集まり、活気ある開会となりました。

今回の県大会では、最近の活動の中で県育成会がテーマとしている障害のある人の権利擁護とその意思決定支援を掲げました。

講演には、上智大学の大塚晃教授をお招きして、「意思決定支援について」のお話を伺いました。大塚先生は親でもあり、現場の職員の経験もあり、そしてもちろん福祉の学問の専門家でもあり、本人を中心に置いた支援ということがどうあるべきか、多様な視点でのお話を伺うことができました。



また、シンポジウムでも、本人の意思を丁寧に拾い常に語りかけるコミュニケーションで、学校の先生方にもそのやり方を共有化できているお母さんの話や、現在日中事業所とグループホームを利用している40代の女性が今の生活にたどり着くまで、意思をしっかりとって繰り返し自己決定してきたお話など、

本人を尊重することとは、人としての愛情や優しさが基本となり、障害のある人たちの思い(意思)に、どれだけ支援する側が気付くことが重要なことだと感じられたシンポジウムとなりました。

(上) 長崎市の発表者・田川さんと支援者・長島さん
(下) 島原市の発表者・塚原さん親子のスライド

以前から、育成会は本人たちのための権利擁護団体だと教えられてきましたが、その原点を忘れずに、これからも本人さんたちの意思を尊重し、地域と手をつないで幸せな社会となるよう力を尽くしていきたいと思いました。最後に、どの内容も愛情にあふれ、暖かいほっこりとした気持ちで帰路に就くことができました。(谷)

《島原大会・表彰者》

感謝状

佐世保西ライオンズクラブ(会長 内田 信介氏)／佐世保市

森藤 真須美(もりふじ ますみ)氏／島原市

江崎 麻衣子(えざき まいこ)氏／島原市

表彰状(会員)

岩本 一美(いわもと いちみ)氏／島原市

故 増田 俊幸(ますだ としゆき)氏／島原市

高田 宏子(たかだ ひろこ)氏／平戸市

中野 元晴(なかの もとはる)氏／対馬市



長崎県手をつなぐ育成会 島原大会に参加して ～記念講演 意思決定支援について～

大塚先生は社会福祉の学者さんです。お話は少し難しいのかなあと考えていたら、とても気さくな口調で肩の凝らない講演でした。先生は私たちと同じ知的障害者の親でもあり、息子さんがグループホームを出されるといいう悲しい経験談も語って下さいました。親として共感できる先生が、福祉政策の研究者であるというのは、とても心強く感じます。

講演を聞いて、印象に残った内容の抜粋です。

- ・人は人の中で生きる
- ・少し過激ですが「ワクワクやドキドキの無い計画書はクソだ」
- ・障害のある人と丁寧に向き合い、情報を共有しながら物語を作っていくことが大切
- ・成長の段階に応じた環境で暮らし、友人、支援者、家族など、多くの人との関わり合いが必要

私はこの感想をまとめながら、あるイメージが湧いてきました。障害があるけれどワクワクの溢れる生活を送る人々の様子や、寄り添う周囲の人々の笑顔です。

本人が想いを叶えるためには、先ずその想い(意思)を選択しなければなりません。日常の支援の中で、体験と時間を積み重ね、選択肢を増やしながら、たくさんのエピソードを紡ぐこと、それが“物語のある支援”であり、本人の意思が反映された、ワクワクやドキドキのある人生に繋がるのではないのでしょうか。(大村市育成会 高木みち子)



(右から)シンポジウムで意見を述べられる大塚晃教授、本人部会「長崎きずな」会長・吉田光一氏、本人活動サポーティングマネージャー・吉井裕子氏

県への要望意見交換会

平成 30 年 10 月 30 日 13 時より、県庁 3 階の会議室で毎年恒例となった長崎県への要望 意見交換会が開催されました。育成会からは竹内会長を始め山口、谷岡副会長と三村事務局長 4 名で参加してきました。今年は新しい要望事項と合わせ、昨年までの要望事項の中で現況等を再度確認するための意見交換も行いました。

■平成 29 年度回答書の親展確認

1. 後見人不足の取り組みは如何に→各市町への助成を続けていく
2. 地域生活支援拠点事業について→市町、関係者と課題認識を共有していく
3. 長崎県の第 5 期障害者福祉計画の意思決定支援についてどのような取り組みか？
→初任者及び現認研修などで意思決定支援ガイドラインを活用し理解を深める。

■平成30年度要望

1. 災害時の福祉避難所の現状。障害特性を考慮した機能が備わっているか？
→県下に 47 施設が福祉避難所と指定されている。障害者施設なので内容は整備されている。
2. 旧優生保護法下の不妊手術問題について→県に相談窓口設置(こども家庭課母子健康班)
3. 障害者雇用促進法に係る雇用率の水増し問題について
→障害者雇用率の算定についてはお詫び申し上げます。精神、知的障害者についても特性に応じた検討を進めていく。



島原大会で車いすダンスを披露

塚原 若菜さん(左)

シンポジウムで発表

塚原 陽子さん(右) 親子

島原市育成会

キラキラの衣装に身を包まれ、職員に声をかけられると、緊張した表情がパッと明るい笑顔に。照明のきらめく舞台に吸い込まれていった若菜さんは島原特別支援学校に通う、高校 2 年生。この日、大勢の観客の前でオープニングアクトの車いすダンスを披露した。

母の陽子さんは若菜さんの意思決定支援にどう取り組んできたか、同日のシンポジウムで発表した。写真や動画を使い日頃のやりとりをそのまま見せることで、ほぼ寝たきりの若菜さんがいかに多くの感情と意思を持って日々を過ごしているか、会場にも十二分に伝わった。

小さい頃からこんなに感情表現が豊かでしたか？の問いに「胃ろうにしてから表情が抜群に良くなった。学校やデイサービスとも連携して、同じように声かけして反応を見て…こちらがいろいろ工夫すれば、若菜も伝えようとしてくれる」と、明るい陽子さん。お気に入りの Hey! Say! JUMP の CD を聞きながらのリハビリや、学校やデイサービスの送迎時に見せる若菜さんのいきいきとした笑顔は、見ているこちらにも微笑みたくなる。意思疎通に悩む人にも前向きな気持ちを贈ってくれる、そんな親子だ。



輝らっ人に登場してみませんか？

愛育ながさきでは「輝らっ人」の記事を募集中です。あなたの周りの「きらっ」と光る人・モノをご紹介ください。文と写真を県育成会までお送りください。(文・写真は返却不可)メールも可です。

〒852-8104 長崎市茂里町 3-24 長崎県総合福祉センター県棟 4F 408 号

E-mail: info@ikusei-nagasaki.jp

育成会フォーラムへ出動！「長崎よかよか隊」

11月30日(金) 長崎県歯科医師会館

平成30年春に10名程のメンバーで結成した長崎市育成会のキャラバン隊「長崎よかよか隊」は、その前の年にお招きした広島「あび隊」からいただいた資料を参考にして長崎版を作り、自閉症、発達障害を含む知的障害の疑似体験を通して障害理解を広める活動をスタートさせました。

障害がある人たちを「よかよか～」と優しく包み込む社会であってほしいという思いで「長崎よかよか隊」と名付け、7月に初舞台を踏みました。初舞台の時はプログラムも半分ほどしかできておらず、活動と並行してミーティングを重ねながらプログラムを完成させていき、長崎版オリジナルとして、知的障害のあるAくんの1日を追いながら障害特性を知ってもらうための「Aくんのいちにち」というストーリーも作りました。

4回目の出動となった「育成会フォーラム」には7名の隊員で参加させていただき、6つのプログラムを披露することができました。この疑似体験は親であっても、気づきや考えさせられることがたくさんあります。この活動を通じて、多くの方に障害理解を深めていただき、多様性を認める誰もが住みやすい社会になってほしいと願って活動していきたいと思います。(長崎市育成会 吉井裕子)

～参加者アンケートより～

*内容についてほとんど理解できた…85%

*このような疑似体験は知的障害者・障害特性を理解するのに必要…100% と回答

- ・知的障害のある方のこうであらう体験をわかりやすく楽しく知ることができました。このような活動を多くの方に知ってもらうことで、すべての人が住みやすい社会になってほしいと思います。
- ・日頃、事業所で知的障害のある方と接していますが、今回、疑似体験として、実際に経験してみると、今までの理解は十分でなかったんじゃないかと感じました。地域の皆さんに体験していただくことで、知的障害のある方の理解に必ずつながると思います。
- ・全国各地でキャラバン隊が活動されていることを初めて知りました。何か協力できればと思いました。
- ・自分の子を育てながらも、本人のことがよく理解してないことが改めてわかりました。抽象的な言葉遣い、表現で物事を終わらせていたことに反省です。



当日のプログラム

- ①「ゲナ帝国へようこそ」
伝えたいのに伝わらない、分かったのに分からない、もどかしさの体験
- ②「絵に描いてみよう」
抽象的な表現は伝わりにくいという体験
- ③「Aくんのいちにち」
障害特性を知ってもらうためのストーリー
- ④「ペットボトルの穴から見てみよう」
シングルフォーカスの体験
- ⑤「軍手をはめてやってみよう」
指先が思うように使えない不器用さの体験
- ⑥「分かっている知的障害」
知的障害や知的障害者についての説明



- ・実際に体験することで、障害のある方の気持ち、特に不安、イライラ、おいこまれている恐怖を感じた。

何気ない言葉があいまいであることがよくわかった。今後も一般の方々に伝えていきたい。

いきいきと暮らす ～本人部会活動を紹介します～

佐世保市 サン「SASEBO」

佐世保の本人部会は、昭和61年に佐世保市手をつなぐ親の会で、「青年学級」という名称で発足致しました。会員は30名程度で支援員は職員が4～5名、当時は佐世保市内の公園、道路の草刈り、ごみ、缶の収集などに2～3回程度の活動に加え、レクリエーションを楽しんでいました。

その後支援員は、保護者(父を含む)5～6名に変わり、平成14年には、《太陽のように輝く仲間》という意味を込めて、サン「SASEBO」と改名しました。支援員も後継者に恵まれ現在に至っております。日頃、就労されている人もあり今は、レクリエーションを中心の活動になっております。

活動を通じてお互いの親睦を深め、「自分の思いを人に伝える」「意志決定の訓練の場」「協調性を養う」等、自立に向けた活動を続けております。

現在は、会員数60名、世話人5名での活動ですが年々参加者は少なくなっているのが現状です。今後、この部会が存続できるよう皆で話し合い、アイデアを出し合って活動を続けて行きます。

(佐世保市育成会 品川 桂子)



花見



ボウリング大会



バスハイク(ペンギン水族館)



バイオパーク



レクリエーション(ゲーム)



反省会および次年度行事計画話し合い



奈良少年刑務所受刑者の作品「空が青いから 白をえらんだのです」は、心をほぐす詩の授業の中でうまれた。童話作家である寮美千子さんが、刑務所で唯一「冷暖房のある教室」で 10 年間続けた詩の教室から得た作品を 2 冊の詩集にまとめ、作品そのままが著書の「表題」に。(2010 年長崎出版から刊行、2011 年新潮文庫化)

その寮さんが、10 月 13 日、諫早社会福祉会館で「ながさき福協会研修会」(旧称福祉的支援協力事業所協議会)の招きで「詩が開いた心の窓～奈良少年刑務所での試み～」と題して研修会が開かれた。

「空が青いから 白をえらんだのです」の作者 A さんは「今年でおかあさんの七回忌です。おかあさんは病院で『つらいことがあったら、空を見て。そこにわたしがいるから』とぼくにいってくれました。それが、最期の言葉でした。…」と、作品の背景を紹介。支援者の寮さんは、「たった一行に込められた思いの深さ。そこからつながる心の輪。『詩』によって開かれた心の扉に、目を開かれる思いがしました」と感想を披露された。数点の作品と、詩の教室での生徒(若い受刑者たち)たちの素直な感想や寮さん自身が学んだことなどを紹介。「褒められることがなかった人たちは、この教室で共感することのすばらしさを学び」「人は、グループ学習の中で育つ」と講演の結びに添えられた。

講演者の深く熱い思いは、詩集とラジオ深夜便「明日への言葉」を参照下さい。(県育成会顧問 甲田 裕)

第 18 回全国障害者スポーツ大会メダル獲得者(知的障害者のみ掲載)

平成 30 年 10 月 13 日～15 日まで福井県で開催され、長崎県から個人競技 31 名と車椅子バスケットボール競技 12 名、サッカー競技 16 名、聴覚バレーボール男子 10 名が参加し、金メダル 4 個、銀メダル 1 個、銅メダル 6 個計 11 個を獲得しました。

競技種目	選手名	種目 1	種目 2
陸上競技	山田 怜也	1500m 第 1 位	800m 第 1 位
	野田明日夏		100m 第 3 位
水泳競技	柳迫 友希	25m バタフライ第 2 位	50m バタフライ第 3 位
卓球競技	太田 歩美	一般卓球第 1 位	
	上野 優伍	一般卓球第 1 位	
フライングディスク競技	中村 力	フライング第 3 位	
ホッケー競技	増山 尚史	青年男子第 3 位	
	谷山 太一	青年男子第 3 位	
	平 憲治	青年男子第 3 位	

知的障害児者・自閉症児者のための

生活サポート総合補償制度

(年間掛金) A プラン: 17,000 円、B プラン: 23,000 円

入院給付金 個人賠償責任保険金 葬祭費用保険金

死亡・後遺障害・入院・通院・手術の各保険金

既往症、てんかん発作など知的障害児者・自閉症児者の方が抱える様々なリスクを補償するために開発された制度です。

パンフレットのご用命は下記事務局または担当代理店へお問い合わせください。



(事務局) ながさき知的障害児者生活サポート協会

TEL: 095-893-5503 FAX: 095-814-1778

2016 年 4 月より 新プラン誕生!!

新プラン(Bプラン)の主な特長は

★入院給付金 2 日目から補償

★個人賠償 最高 3 億円まで補償

★ケガの入院を日額 5,000 円、通院を 3,000 円補償

(担当代理店) ジェイアイシー九州

TEL: 092-791-7561 FAX: 092-791-7562

《 長崎県手をつなぐ育成会行事のお知らせ 》 3月まで

行 事	月 日	場 所	概 要
全国事業所協議会 研修大会(沖縄大会)	1月26日(土)	沖縄県青年会館	大会テーマ 『今、求められる事業所の役割と運営』
障害のある人の権利擁護・ 意思決定を支えるための 推進会議	1月26日(土)	新上五島町 石油備蓄記念会館	13:00～13:20 開会行事 13:25～14:10 講話 「意思決定支援について」 長崎国際大学教授 高島恭子氏
	2月2日(土)	苓崎市石田 農村環境改善センター	14:15～14:40 事例発表 14:45～16:30 グループ討議など
五島分校家族支援ワークショップ	2月3日(日)	五島分校小・中学部	10:45～12:15
第5回全国手をつなぐ育成 会連合会全国大会京都大会	2月23日(土) 2月24日(日)	国立京都国際会館 グランドプリンスホテル京都	大会スローガン『京(みやこ)から ほほえみあふれる新しい未来へ』
全国育成会フォーラム 代表者・事務局長会議	3月7日(木) 3月8日(金)	アットビジネスセンター 東京駅八重洲通り	
本人部会「長崎さずな」	3月10日(日)	長崎県総合福祉センター	11:00～13:00 全国大会報告、 1年間の反省・次年度に向けて
第3回理事会	3月15日(金)	長崎県総合福祉センター	13:00～16:00
家族支援フォローアップ講座	3月20日(水)	検討中	検討中
無料法律相談	1月16日(水)	対馬市豊玉福祉センター	13:00～14:00 大村さくら法律事務所 弁護士曾場尾雅宏氏講話
	2月13日(水)	長与南交流センター (長与町・時津町合同)	14:00～14:30 質疑応答 14:30～ 個別相談



「手をつなぐ」は、知的な障害のある当事者（本人・家族）に関しての教育・福祉・労働等々の諸施策を中心に、全国手をつなぐ育成会連合会が編集・発行している月刊誌です。文字どおり、全国の仲間が「手をつなぐ」ために役立つ情報誌です。 年間3,900円 B5版48ページ

長崎県手をつなぐ育成会までご連絡ください。

申込みは TEL 095-846-8730 FAX 095-846-8738へ

**知的障がい・発達障がい
ダウン症・てんかんの
ある方のための保険**

病気やケガでの
入院

虐待・差別・逮捕に
対応

誤って物を壊してしまう…

個人賠償
責任補償
最高5億円

最高日額1万円

弁護士費用補償

※(総合生活保険(個人賠償責任補償))
引受保険会社:東京海上日動火災保険株式会社

**ぜんちの
あんしん保険**

東京海上日動の
個人賠償責任補償付

少額短期健康総合保険(無告知型) 2016年創設

**ぜんちの
こども傷害保険**

東京海上日動の
個人賠償責任補償付

権利保護補償付傷害保険(2016年創設)

日常生活でケガを
することが多い…

トラブルに巻き込まれた際、
誰も助けてくれない…

当事者同士での
解決が難しい…

入院・通院を日額保障

弁護士がサポート

示談交渉サービス付き

ネット申込・年払・月払OK | クレジットカード払OK ※ネット申込のみ

※ご契約にあたっては必ず「ご契約に際しての重要事項」「約款」東京海上日動の「重要事項説明書」をよくお読みください。ご不明な点等がある場合には、ぜんち共済株式会社までお問い合わせください。

詳しい資料のご請求・お問合せは下記までお気軽にどうぞ

<代理店>

有限会社 トータルサービス

TEL 095-832-2430

〒850-0033 長崎市万才町6-35 三井生命長崎ビル5階

ぜんち共済株式会社

ZENCHI 関東財務局長(少額短期保険)第14号
〒101-0032 東京都千代田区岩本町三丁目5番8号岩本町シティプラザビル5F

コールセンター 0120-322-150

ぜんち共済 検索 http://www.z-kyosai.com/

[2017年12月作成 17-T08668]